平成３０年　９月　１４日

# 平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３０年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

## 【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成30年4月17日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 第４学年 | 国語 | １１５人 | 算数 | １１５人 | 理科　１１５人 |
| 第５学年 | 国語 | １１３人 | 算数 | １１４人 | 理科　１１４人 |

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

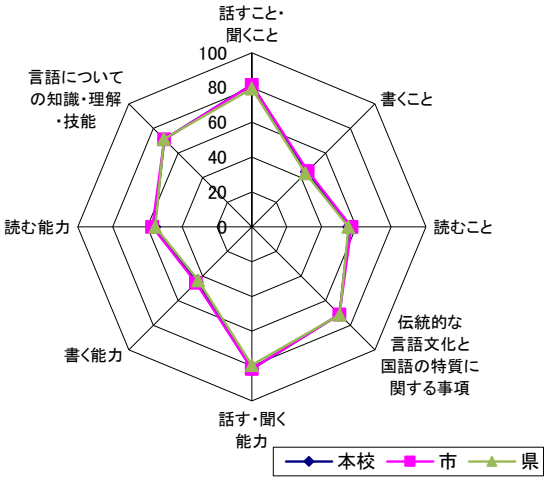
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 81.7 | 81.6 | 79.4 |
| | 書くこと | 44.6 | 45.4 | 43.6 |
| | 読むこと | 55.9 | 57.2 | 55.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 71.2 | 71.1 | 71.4 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 81.7 | 81.6 | 79.4 |
| | 書く能力 | 44.6 | 45.4 | 43.6 |
| | 読む能力 | 55.9 | 57.2 | 55.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 71.2 | 71.1 | 71.4 |




## ★指導の工夫と改善

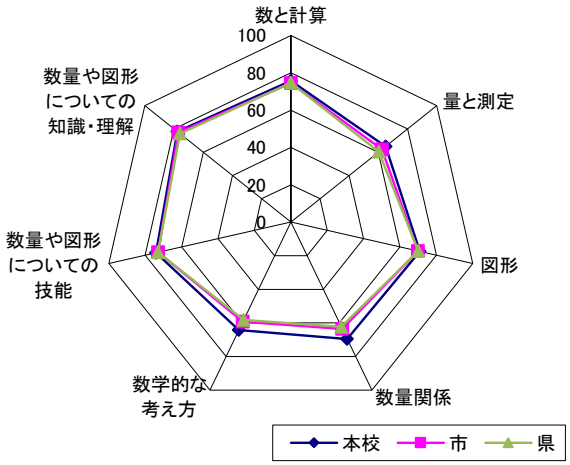
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は，市の平均とほぼ同じである。<br>○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する」設問の正答率は，県や市の平均より高い。<br>●記述で回答する設問での無回答の児童が12.2%おり，課題が見られた。 | ・教科や特別活動の指導において，グループなどの少人数で話し合う活動を効果的に取り入れる。また，児童一人一人が進行するための役割を理解して，それぞれの役割を果たす経験をする機会を設けるなどして，積極的に参加し，自分の意見を述べることができるよう指導していく。さらに，児童の日常生活でも自分の意見を反映させていけるように，多くの場を設定していく。 |
| 書くこと | 平均正答率は市の平均よりもやや低い。<br>○「文章構成を意識して報告レポートを書く」設問の正答率では，県や市の平均より高い。<br>●「メモをもとに，報告レポートに適切な内容を書き入れる」と「メモや友達の意見をもとに，報告レポートの内容を書く」設問の正答率では，県や市の平均より低い。<br>●設問別無回答率は，県や市の平均を上回っている。 | ・レポートにまとめる際に，見出しを付けたり，番号をつけたり，メモに書いたことをどのように整理するとわかりやすくなるのか構成を考えながら書くように指導する。<br>・筆者はどのようなことをレポートに書こうとしているのか，中心となる内容を明確に記述できるように指導する。<br>・国語の授業だけでなく，社会や総合的な学習の時間等で，メモをもとにレポートを作成する学習を取り入れていく。<br>・すべての設問に取り組めるよう普段のテストなどの際にも時間配分や解答の順序などにも気を付けさせる。 |
| 読むこと | 平均正答率は市の平均よりも低い。<br>○段落の要点を捉えて読む設問の正答率は県や市の平均を上回っている。文章の細かい点に注意しながら読み，整理することに良好な状況が見られる。<br>●文章を読んで感じたことや考えたことを発表する設問は県や市の平均を大きく下回っている。また，この設問に対しての無回答率も高い。 | ・「読むこと」の文章内容の理解において，小見出しを付ける等内容によってまとまりを作る活動を取り入れたり，大事な部分に傍線等を引きながら注意深く読ませたりするなどして，内容を整理しながら読み進めていけるよう指導する。内容をまとめる際も，空欄だけのワークシートの他に，中心となる語や文を抜き出す穴埋め式のワークシートも準備しておき，自力解決が難しい児童には，まず穴埋め式から取り組ませるなど指導を工夫する。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は，県や市の平均とほぼ同じである。<br>○漢字の書き取りは，県や市の平均より高く，無回答率も低くなっていた。<br>○国語辞典の使い方については県や市の平均より高いが，無回答率も高かった。<br>●「ローマ字の書き方」や「毛筆を使用して書くこ」とは，県や市の平均を下回り，選択式にも関わらず無回答率が高かった。 | ・漢字練習の方法において，さまざまな熟語を取り入れたり，漢字の意味を調べたりする活動を取り入れながら，さらに漢字の定着を図っていく。<br>・ローマ字は児童の生活の中に身近なものとなっている。児童が日常目にする単語表記の確実な定着を図るために，計画的に繰り返し練習を行う。また，定着の状況によって意図的に復習する場を設けていく。具体的には，自主学習にローマ字で文章を書く活動等を取り入れる。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 75.7 | 74.5 | 74.6 |
| | 量と測定 | 65.0 | 62.4 | 60.4 |
| | 図形 | 70.9 | 69.9 | 70.1 |
| | 数量関係 | 69.6 | 63.6 | 62.3 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 64.3 | 59.2 | 58.3 |
| | 数量や図形□についての技能 | 74.1 | 72.9 | 73.0 |
| | 数量や図形□についての知識・理解 | 77.8 | 77.1 | 76.0 |




## ★指導の工夫と改善

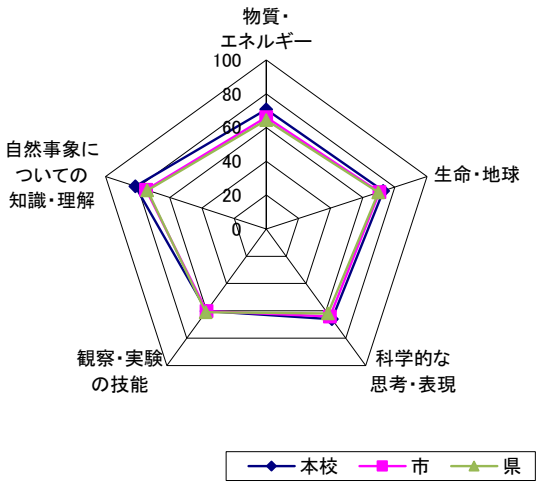
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | 平均正答率は，県及び市平均よりやや高い。<br>○整数や小数の入った基本的な加減乗除の計算をする問題は，よく理解できており，正答率が高い。数直線や線分図についても，目盛りの読み方はよく理解できている。<br>●基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍かを求める問題や計算の順序に合うように（ ）を書き入れる問題は，県及び市の平均より低く，課題が見られる。 | ・四則演算については，今後も授業や家庭学習などで繰り返し学習することで，さらに定着を図っていく。<br>・図や数直線などを問題の解決のために活用できるよう，日々の授業において数量の関係を図や数直線に表し，それらを用いて考えたり説明したりする学習を丁寧に行うとともに，それらを活用する習慣をつけさせていく。<br>・（ ）の中を先に計算するきまりをしっかり理解できるよう具体的な場面を使って指導し，繰り返し学習することで定着を図る。 |
| 量と測定 | 平均正答率は，県及び市平均より高い。<br>○ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ問題や，はかりが示す重さを読み取り，全体の重さを求める問題についてはよくできている。<br>●木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ問題では，県及び市の平均をやや下回り課題が見られる。<br>●表を見て，ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題では，正答率が低く課題が見られる。 | ・身の回りにある事象と結びつけて考えたり，実際に計測する活動を取り入れたりして，実感を伴った理解を促す。<br>・日々の授業で文章問題の読み取り方や，図・表から関係性を整理するやり方などを繰り返し指導していく。 |
| 図形 | 平均正答率は，県及び市平均よりやや高い。<br>○折り紙を2つに折って切った後，広げてできる形を選ぶ問題は，よく理解できている。<br>●与えられた1辺の続きをかいて正三角形を完成させる問題では，県平均及び市平均より低く，課題が見られる。 | ・円を用いて二等辺三角形や正三角形を作図する活動を通して図形の性質の理解を深めるとともに，数量・図形についての技能が定着できるようにする。<br>・立体図形も，円と球の直径の性質を生かして平面図形に置きかえることにより，円や球の性質，直径と半径の関係を用いて考えることができるような学習プリントの活用や児童が自分で考え方を説明する活動を多く取り入れる。 |
| 数量関係 | 平均正答率は，県及び市平均より高い。<br>○未知の数量を□として，数量関係を表した線分図を選ぶ問題や，□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題が，よく理解できている。<br>○棒グラフからわかることとして正しい内容を選ぶ問題や，棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明する問題が，よく理解できている。 | ・□の意味や□を使った式で表す有用性，日常生活での活用場面を理解させる。また，図に表された数量の関係を読み取ってそれを式に表す活動や，式に表された数量の関係を読み取って図に表す活動を通して，数量関係を的確に関連付けることができるように指導する。<br>・棒グラフの指導においては，棒グラフの良さや有用性について理解させる。また，目盛りの付け方が異なる複数のグラフを比較させる活動を通して，目的に合った適切な目盛りの付け方ができるように指導する。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 70.7 | 66.1 | 64.4 |
| | 生命・地球 | 72.8 | 70.4 | 69.8 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 66.1 | 64.1 | 61.9 |
| | 観察・実験の技能 | 60.2 | 60.2 | 61.0 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 81.5 | 74.8 | 74.0 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は県や市の平均よりも高い。<br>○虫眼鏡で集光した所の大きさと明るさの変化をよく捉えていた。<br>○電気の流れの通り道の名称がよく理解できていた。<br>○1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路についてよく理解できていた。<br>●物の形と重さや体積と重さの関係について課題が見られる。 | ・観察や実験において，予想や仮説などの見通しをもたせた上で，問題解決のプロセスを大切にした授業設計をする。<br>・観察や実験を通して，自然の事物・現象の性質や働きについて気付いたり確かめたりするなど，実感を伴った理解ができるように指導していく。<br>・実験の結果について，客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。<br>・物の形と重さや体積との関係を調べ，実験においては実験の目的を明確にするとともに，問題意識をもって取り組めるように十分な時間を確保し実験する。 |
| 生命・地球 | 平均正答率は県や市の平均よりも高い。<br>○昆虫の成虫がたまごを産む場所の理由についてよく理解し，説明することができていた。<br>○昆虫の体の色とすみかとの関係についてはよく考察できていた。<br>○時間によるかげの変化のしかたがよく理解できていた。<br>●虫眼鏡の適切な使い方について課題が見られる。<br>●記録から日なたの温度計を選び，その理由を説明することについて課題が見られる。 | ・自然の事物・現象の理解を図るとともに，グラフなどの資料を正しく読み取ることができるように指導していく。<br>・道具の正しい使い方を説明し，実際に使用させ，正しく使えるよう継続して指導する。<br>・実験や観察の結果について，客観的な見方で自分なりの考えがもてるようにする。また，そのことを.理由付けをして説明する場面を設定する。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第４学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家の人はほめてもらいたいことをほめてくれる」「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分には，良いところがあると思う」の質問に対しての肯定割合は，県平均より6～10ポイント高い。家庭や学校でほめられていると実感できることで，自己肯定感が高まっていることがうかがえる。

○「家で宿題をしている」について肯定的回答をしている割合は，県平均より高い。家庭学習の中でも決められた課題に対し，前向きに取り組めている様子がわかる。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の質問では，県平均より10ポイント上回った。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」や「友達の話を聞くとき，意見を最後まで聞くことができる」の肯定割合が高いことから，安心して発言できる雰囲気の中で基本的なコミュニケーションが身についていることがわかる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は60%，「人と話すことは楽しい」と回答した児童は96.5%で，それぞれ県や市の平均を上回った。これからも学校の教育活動全般において，発表の場やコミュニケーションを図る機会を設けるよう努めていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合は，県や市の平均を上回り，文章を書くことに苦手意識をもつ児童の割合が多いことがわかる。小集団での話し合った上で自分なりの考えを書いたり，書いたものを発表したりする場を多く設けていきたい。

●「授業で分からないことがあると，先生に聞くことができる」と回答した児童の割合は，県や市の平均より低く，得点率の高い児童と低い児童において差も大きい。授業では，全体での指導のほか，個別にも声をかけ学習の理解度を深めていく。

●「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」に対する肯定的な回答は，県や市より低い。今後も，各教科において，授業の最後に学習のめあての明示から，学び合い・まとめ・振り返り等，授業の進め方を工夫していくとともに，学習したことを振り返る活動を大切にしていく。

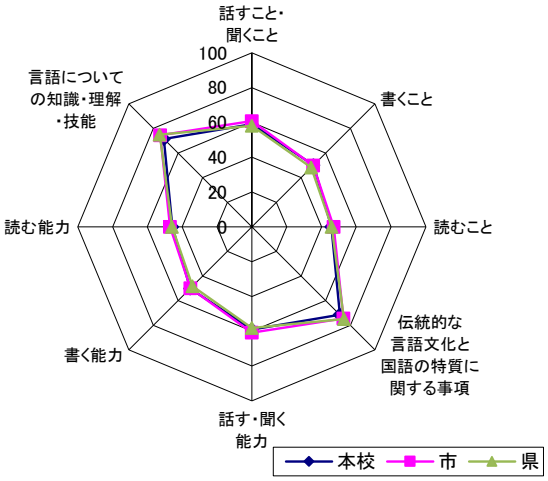
●「家で自分で計画を立てて勉強している」や「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の設問で肯定割合が県や市の平均より低いので，家庭との連携を強化し，家庭学習強化週間・家庭学習計画表などを活用しながら，自ら課題をもって学習を進めていくことができるようにさせたい。

●「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を集めている」の設問に対しての肯定的割合は県や市の平均を約6ポイント下回っている。また「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」や「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」の設問に対しての肯定的割合は県平均をやや下回っている。授業でも本や辞書・インターネットなどを活用した調べ学習の時間を確保するとともに，自分から進んで本や辞書・インターネットなどを活用して，積極的に調べていこうとする意欲を高め，分かる喜びを実感できる場を設定していく。

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 59.0 | 60.8 | 58.1 |
| | 書くこと | 50.1 | 49.8 | 48.3 |
| | 読むこと | 45.7 | 47.0 | 45.9 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 71.5 | 74.4 | 74.8 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 59.0 | 60.8 | 58.1 |
| | 書く能力 | 50.1 | 49.8 | 48.3 |
| | 読む能力 | 45.7 | 47.0 | 45.9 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 71.5 | 74.4 | 74.8 |




## ★指導の工夫と改善

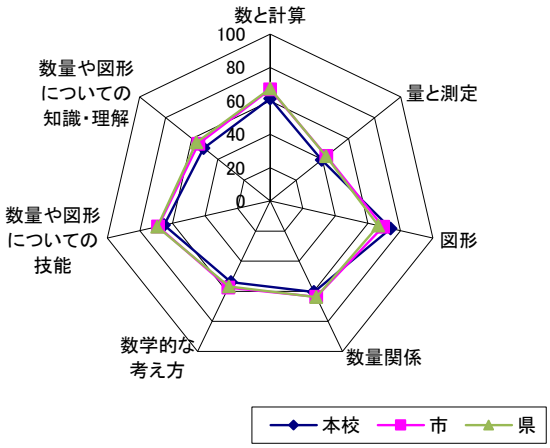
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は，市の平均より低い。<br>○話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すという設問の正答率は，県や市の平均を上回っていた。<br>●話し合いにおいて，発表者の意見の共通点を考え，指定の字数内で書く設問の正答率は県の平均を下回っている。記述式の問題のため正答の割合は個人差が大きく，今後の課題と考えられる。 | ・話し合いの際には，話し手の意図を明確にとらえ，自分の考えに根拠を添えて論理的に話すようにする活動を，継続して取り入れていく。<br>・話し合いの中で，自分の役割を意識して適切な話し方ができるよう，授業以外でも学校生活の様々な場面で，立場を明確にして話し合う場を意図的に設定する。 |
| 書くこと | 平均正答率は，県の平均より高いが市の平均とほぼ同じである。<br>○掲示物の内容に合う資料を選ぶ問題と，資料を読み取り必要な内容を整理して書く問題の正答率は県の平均を上回っている。<br>●資料を読み取り，適切な文章を選ぶ問題の正答率は県の平均よりやや低い。記述式の問題の回答率は個人差が大きく，今後の課題と考えられる。 | ・文章を書く際には問題の条件をよく把握して，必要な情報を落とさずに書けるよう具体的な書き方を視覚化しながら提示して指導していく。<br>・他教科でも資料の読み取りや，そこからわかることを書き留める活動を取り入れるなど，文章を書く活動を積極的に取り入れていく。 |
| 読むこと | 平均正答率は，県の平均とほぼ同じだが市の平均より低い。<br>○叙述をもとに，登場人物の気持ちを想像して読むことと，段落の要点をとらえて要約する設問は，県の平均を上回っている。<br>●文章の要点や細かい点に注意しながら読み，整理する設問は県と市の平均を下回り，個人差が大きく課題が見られる。 | ・物語文や説明文では，全体を捉え，内容を考えたり，文章を要約したりする活動を取り入れ，繰り返し丁寧に指導していく。<br>・図書館を活用したり，新聞等，様々な分野の文章に親しむ活動を取り入れたりして，読書活動の一層の推進を図り，読む力を高めていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 平均正答率は，県や市の平均より低い。<br>○漢字の読み・構成（部首・たれ）や漢字辞典の使い方に関する設問の正答率は県や市の平均より高くよくできている。<br>●漢字の書き・ローマ字・慣用句の使い方に関する設問では，正答率が市と県の平均を下回り，今後の課題である。 | ・伝統的に使われてきた言語表現である慣用句やことわざを日常生活の中で活用し，身近に慣れ親しむ機会を増やしていく。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 61.4 | 66.9 | 67.4 |
| | 量と測定 | 39.5 | 43.2 | 43.0 |
| | 図形 | 74.1 | 69.4 | 66.5 |
| | 数量関係 | 60.5 | 63.7 | 63.9 |
| 観点 | 数学的な考え方 | 54.0 | 57.5 | 56.8 |
| | 数量や図形についての技能 | 65.1 | 68.8 | 69.3 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 50.9 | 54.9 | 56.4 |




## ★指導の工夫と改善

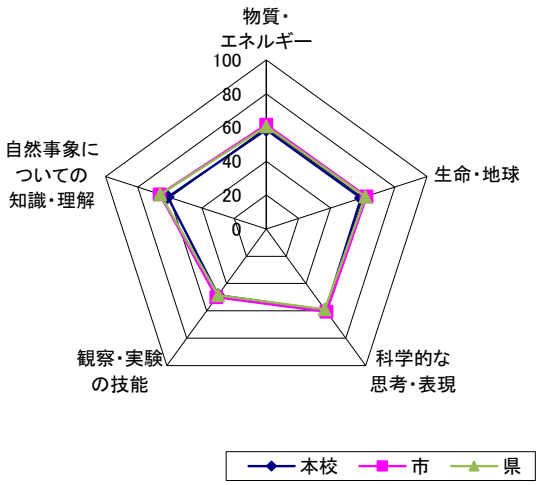
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | 平均正答率は，県や市の平均より低い。<br>○3位数×2位数＝4位数の計算問題では，正答率が県や市の平均を上回った。<br>●小数－小数の計算では，正答率が県よりも8.9ポイント，市よりも8.1ポイント下回った。<br>●数直線上の矢印の値を表す数を分数で表す設問では，正答率が県よりも11.0ポイント，市よりも7.6ポイント下回った。 | ・小数，分数の計算についての理解が不十分である。小数，分数のしくみを説明する活動を充実させることで理解を深め，補助教材や学習プリント等を活用して確実な計算力を身につけさせる。<br>・四捨五入をして，見積もりを立てて考えることが不得手であることから，実生活に活用できそうな課題設定をしたり，計算をする前に予想を立てたりすることで，理解と定着を図る。 |
| 量と測定 | 平均正答率は，県や市の平均より低い。<br>○複合図形の求積方法については，正答率が県や市の平均を上回った。<br>●1㎡の正方形は1㎠の正方形何枚分かを求める設問で，段階的に数や言葉を使って答えていく内容の正答率は，県や市の平均より10ポイント以上低く，特に課題である。<br>●180°を超える角度の求め方について，数や言葉を使って答える問題に対して，県・市の平均より4．3ポイント下回った。 | ・複合図形の求積問題については，授業で多く扱った問題であることから，自信をもって取り組めたと考えられる。<br>・1㎡が何㎠かを問う問題や180°を超える角度の求め方については，段階的に数や言葉を使って答える問題の正答率が低いことから，問題を根気強く読み進める力を伸ばすとともに，解き方や考え方を順序立てて記述する活動や必要な用語や数値を適切に使って説明する活動に取り組ませていく。 |
| 図形 | 平均正答率は，県や市の平均より高い。<br>○平面上にあるものの位置を表す問題では，正答率が県よりも9．3ポイント，市よりも4．1ポイント高く，よくできていた。<br>○与えられた2辺の続きをかいて平行四辺形を完成させる問題でも，県より5．8ポイント，市より5．3ポイント高く，よくできていた。 | ・作業や操作を多く取り入れることで，より高い理解につなげられていると考えられる。高学年の算数でも作業や操作する活動をこれからも取り入れていく。<br>・量と測定の指導の重点と同じように，作業や操作活動の後には，自分のことばでまとめていくことを意識させていく。 |
| 数量関係 | 平均正答率は，県や市の平均より低い。<br>○図や表から変わり方を考え，表にあてはまる数を求める設問の正答率は8割を超え，市の平均よりもやや上回っていた。<br>●折れ線グラフを読み，アイスクリームを買った合計金額が一番少ない月を答える設問では，県の平均正答率を11.7ポイント，市の平均正答率を10.7ポイント下回った。 | ・グラフの読みとりに課題が見られるので，グラフの正確な読み取り方や，2つ以上のグラフを比較するしかた，それぞれの特徴の調べ方や読み取って分かったことを表現する活動を，社会，理科や総合など，算数以外の教科でも積極的に行っていく。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 58.7 | 61.7 | 60.7 |
| | 生命・地球 | 58.9 | 62.4 | 61.6 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 59.6 | 60.6 | 58.9 |
| | 観察・実験の技能 | 48.5 | 50.1 | 48.6 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 61.3 | 66.3 | 66.0 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は県や市の平均より低い。しかし，金属，水，空気と温度の内容別に見ると，良い点，課題の両方があげられる。<br>○「金属の玉を温めると輪を通らなくなる理由を説明する」設問の正答率は，県の平均より5.1ポイント高い。実験を通して，明らかな変化を実感できたこと，固い金属が変化した，という予想に反した結果が印象強く理解につながったと考えられる。<br>●「沸騰」「湯気」「水蒸気」という言葉に関する設問の正答率は，県や市の平均を10ポイント以上下回り，平均正答率も低い。知識がしっかりと身に付いていないと言える。<br>●光電池の働きと光の強さの関係についての設問では，県の平均正答率を9.7ポイント下回っている。実体験した学習の応用に課題が見られる。 | ・実験を通して見られた変化は，実感を伴った理解につながっていくので，多くの児童が実験に携われるように学習の準備を整えていく。<br>・実験をする前には必ず予想をさせ，意欲と主体性をもって実験に取り組ませ，結果からどんなことが分かるかを自分の言葉でまとめさせるなどして，実感を伴った理解ができるようにする。<br>・知識をしっかりと身に付けさせるために，用語と現象等を結び付けて確認させるとともに用語を使って説明したりまとめたりする活動を増やしていく。<br>・光電池の働きと光の強さの実験は，主に光の強さでソーラーカーを走らせる学習をするが，ソーラーカーの代わりに動かせそうなものがあるか，など関心を広げられる支援をし，応用力を高められるようにする。 |
| 生命・地球 | 平均正答率は，県と比べてやや低い。<br>○星座の動きを捉えるために適切な記録方法は理解しており，正答率が高かった。<br>○コップの内側に水滴が付いた理由を答える設問では，コップの中の水が蒸発してラップに水滴がつくことは理解していることがうかがえた。<br>●オオカマキリの図と同じ季節のカエルの様子の設問は正答率が低く，実際に見たことがない児童が多くいると考えられる。<br>●数時間ごとの月の動きを方位で表す設問では，県との差が15．5ポイント，市との差は14ポイントと大きい。実物を見ることができないため理解しにくいことが考えられる。<br>●全体的に正答率の高い児童と低い児童の差が大きいため，学力の定着にばらつきがあることが分かる。 | ・実験や観察ができない単元においては，今後も視聴覚機材，動画を効果的に使って指導していく必要がある。また，ワークシートにも絵・図・表が使われているものを積極的に活用し，用語と実物とを視覚的に結び付けながら理解できるようにする。<br>・学力にばらつきがみられるので，定着度を確認しながら復習する機会を設けることが必要である。<br>・水の変化や生き物の様子，星の動きなど自然現象にもっと関心をもてるよう，理科の時間以外でも話題に取り上げたり気付きを促したりしていく。 |
| | | |

# 宇都宮市立姿川第二小学校 第５学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」に肯定的な回答をした児童は97.5%で県や市の平均を上回った。「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」と回答した児童も75.4%に達しており，この2つの項目は関連していると考えられる。学習活動の内容として，「自力解決型の課題」を多く取り入れることにより，児童の探究心をより高めていけるように努めていく。同時に，課題を解決するための手立て・方法についても十分指導していく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童は54.4%，「人と話すことは楽しい」と回答した児童は96.5%で，それぞれ県や市の平均を上回った。これからも学校の教育活動全般において，発表の場やコミュニケーションを図る機会を設けるよう努めていく。

○「授業の中で，目標（めあて・ねらい）が示されている」や「授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」では，県や市の平均を大きく上回っている。授業でのねらいを明確にした授業やノート指導がしっかり行われているといえる。

○「家で，テストで間違えた問題について勉強をしている」と肯定的に回答した児童の割合は，県や市の平均より高い。学習テストについて，見直しを行う良い習慣が身に付いている。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」，「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童はそれぞれ77.9%と66.7%で県や市の平均を下回った。授業や家庭学習の中で，地域のことやニュースについての課題を定期的に出すことを推進し，関心を高めていく。

●「難しい問題に出会うと，よりやる気が出る」と回答した児童は56.1%と，県や市の平均を下回った。難しい問題とは，様々な「基礎問題」が複雑に絡んでいる場合が多い。問題解決の鍵となる用語や数字等，１つ１つラインを引きながら確認したり，図や絵，数直線などを用いて考えたり考えを整理したりする習慣を身に付けさせていく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童は57.9%であった。児童の自己有用感を高めるために，自分が役に立っていることを可視化する手立てが必要である。具体的には，クラス掲示物として「ありがとうカード」や「頑張りカード」を友達同士で書き合って掲示することなどが考えられる。

●「授業で分からないことがあると，先生に聞くことができる」の設問に対する肯定的割合は，県や市の平均を下回っている。授業において，質問タイムや教師側から理解の程度を確認する時間を設定するなど工夫をしていく。

●「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」に対する肯定的な回答は，市の平均とほぼ同じであるが，得点率の高い児童とそうでない児童との回答に大きな差が見られた。各教科において，引き続き授業の最初に学習のめあてを明示し，学び合い・まとめ・振り返りといった授業を推進していくとともに，学習の定着状況を把握し，支援が必要な児童にはともにふり返りを行うなどして学習内容の定着を図る。

●「家で，自分で計画を立てて勉強している」については，県や市の平均を下回っており，「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」についての問いにも，県や市の平均より低い。家庭学習強化週間等を生かし，学習計画を立て，自ら進んで家庭での学習に取り組んでいけるよう指導していく。

# 宇都宮市立姿川第二小学校（第４・５学年共通）
# 学力向上に向けた学校全体での取組

## ★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| 主体的，対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 | 各教科の授業において，めあての明示から学び合い・まとめ・振り返り等，児童が「見通し」を持って学習に取り組むことができるように指導している。また，学習内容の定着を図り，次の学習への意欲につなげていけるように，振り返る活動を大切にしている。 | 「授業の中で，目標が示されている」と答えた児童の割合は，4学年は77.4%，5学年は94.7%と学年に差が見られる。「授業の最後に学習したことをふり返る活動をよく行っている」という質問に肯定的に回答した5年生児童の割合は昨年度と比較して約9ポイント増加している。 |
| 読解力，思考力，表現力の伸長 | 授業の中で多様な形態で自分の考えを発表する場を多く設け，ノート等に自分の考えを文章でまとめていく時間を確保できるよう工夫している。 | 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「人と話すことは楽しい」と答えた児童は，4・5学年ともに県や市の平均より高い。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた5学年児童の割合は昨年度と比較して約3ポイント減少している。 |
| 家庭学習の習慣化 | 各学年の発達段階に応じて，家庭学習の内容や分量を工夫している。また，保護者にも各学年に合わせた「家庭学習の手引き」や，学習指導だより等を配布し，家庭学習への取組について協力を呼びかけている。 | 「家で宿題をしている」と答えた児童の割合は，4・5学年ともに98%以上であるが，「家で勉強するときに，だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」と答えた児童の割合は60%未満である。「家で，自分で計画を立てて勉強している」「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した5年児童の割合は，昨年と比較して約2～4ポイント増加している。 |

## ★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---|---|
| 国語科の「読むこと」の内容で，「思考・判断・表現」に関する設問の正答率が市の平均より低い。また児童質問紙調査から，「本やインターネットなどを利用して，勉強に関する情報を集めている」の設問に対しての正答率が県や市の平均を大きく下回る。 | 目的に応じて本や文章の内容を的確に押さえながら読むことができるよう指導する。また，図書館の活用や家読の推進など，読書活動を推進していく。 | 物語文や説明文の指導においてその内容や理解したこと，要旨や書き手の意図について解釈したことなど，内容について話したり，書いたりする活動を取り入れ，読む力を高めていく。また，様々な分野の本を読んだり，本や辞書などを活用した調べ学習を取り入れるなど，読書活動を通して，自ら学ぶ力を育てていく。 |